

東日本大震災・原子力災害伝承館  
第6回資料選定検討委員会議事録

1 実施日：令和2年7月17日（金） 13:00～14:45

2 会場：中町ビル大会議室

3 出席者

委員：○欠席 青木淑子（富岡町3・11を語る会代表）  
小野広司（福島民友新聞社編集局長）  
菊地芳朗（福島大学教授）  
○欠席 鞍田 炎（福島民報社編集局長）  
中井俊郎（JAEA福島研究開発拠点副所長）  
藤澤 敦（東北大学教授）

事務局：野地 誠（文化スポーツ局次長）  
渡邊賢一（生涯学習課長）  
太田栄一（生涯学習課主任主査）  
遊佐昌志（生涯学習課主任主査）  
舘山遥奈（生涯学習課主事）

受託者：（株）トータルメディア開発研究所  
（公財）福島イノベーション・コースト構想推進機構

オブザーバー：復興庁  
経済産業省

4 議事

(1) 伝承館開館までの全体スケジュールについて【資料1】

- 事務局より全体スケジュール及び各事業との進捗について説明。
- 新型コロナの影響により、秋の開館に向けて準備を進めている。（事務局）

(2) 委員会開催計画について【資料2】

- 事務局より伝承館資料選定検討委員会の開催について説明。資料選定検討委員会としては、今回が最後となる。ただし、開館以降も年1回程度は外部有識者の意見を伺う場を設定していく予定である。（事務局）
- 別途【参考2】として、これまでの委員会でのご意見を取りまとめた資料を添付している。（事務局）

(3) プロローグ仮編集映像について【資料3】

- プロローグ映像のナレーションは西田敏行氏に依頼する。BGMについても仮のものとなっている。（事務局）
- 実際のナレーションは方言となるのか。（菊地委員）  
→西田さんの自然な言い回しでお願いする予定である。（事務局）
- 西田さんは大変有名な俳優だが、敢えて西田さんの年齢を入れる必要はあるか。

来館者におじいさんが昔を思い出して話しているイメージがする。来館者に災害を自分のこととして感じてもらえるようになるとよい。(菊地委員)

→映像の演出意図としては、来館者へより災害を自分事として捉えてもらえるきっかけを与えるため、語り掛けるストーリーテラーとして、ナレーターをたてたもの。(事務局)

- 映像に字幕は入れるか。外国の方もいるため、ある程度意味が分かるような工夫が必要である。(菊地委員)  
→外国語は、音声ガイドを導入し片耳で聞ける耳掛けイヤホンで対応する。(事務局)
- 最後にふたば未来学園の生徒が出てくるが、1校の生徒だけでよいか気になる。(菊地委員)  
→昔の映像では人の顔にボカシを入れる必要があり、証言映像に協力していただいた方々の表情を入れている。(事務局)

#### (4) 展示内容の確定について

- 事務局より事前送付していた資料及び資料4について説明。【事前送付資料・資料4】
- 資料4は8月に公表予定の資料のたたき台である。(事務局)
- 【資料4-補足】として、展示を検討中の大型資料「原子力明るい未来のエネルギー」についてまとめている。(事務局)

#### 委員からの御意見

##### ① 災害の始まり

###### <1-1 事故前の暮らし>

- 福島的位置を示す説明映像について、福島第一原発、第二原発の位置プロットが間違えているように思える。(菊地委員)  
→確認する。(事務局)
- 祭りの映像を使うのは大変良いが、浜通りは古い祭りが残っている地域でもあるため、他にも2つ程度映像に入れられるとよい。(菊地委員)  
→企画展での紹介や「復興への挑戦」ゾーンで紹介することを今後検討する。(事務局)

###### <1-2 東日本大震災～地震と津波の記録～>

- 意見なし

###### <1-3 原子力発電所事故の発生>

- 映像の主語について、「自衛隊が～」などとあるが、事故対応にあたった東電社員も福島県民であるため表現に調整が必要かと思う。(小野委員)  
→映像は仮編集のものであるため、可能な範囲で調整していく。(事務局)

###### <1-4 災害対策本部の記録>

- 意見なし

② 原子力発電所事故直後の対応

<2-1 避難の開始>

- 意見なし

<2-2 県内に広がる不安>

- NHK 協力の映像について、“浪江町が現在まで続く全町避難”という表現があるが、展示にあたっては注意が必要。また、津島地区に放射性物質が流れていく様子などは事実ではあるが、表現に配慮が必要になる可能性もある。（小野委員）  
→現在見直しをしているところであるため、調整したい。（事務局）  
→テロップで「いつ全町避難が解除された」と入れるとよい。（藤澤委員）
- 「DAY 0」の表記は違和感があるため、検討してほしい。“0”は無いことを示しているように感じる。（菊地委員）  
→実際の日付で表現するなどを検討する。（事務局）

<2-3 国内外の反応と支援>

- 意見なし

③ 県民の思い

- 意見なし

④ 長期化する原子力災害の影響

- 意見なし

<4-1 除染>

- 「除染のやり方」の映像があるが、ナレーションが現在進行形である。除染のやり方を教えているように感じられるが、特別な意図があるか。（菊地委員）  
→特別な意図はないが、改めて確認する。（事務局）
- 屋根の除染はあるが、他の説明はないのか。庭に除去土壌を埋めたことなども紹介するか。（菊地委員）  
→事前にお送りした映像は“屋根”を抜粋してお送りしたが、実際は家のイラストから始まり、各部位をタッチするとそれぞれの説明が流れるコンテンツとなっている。また、解説グラフィックやタッチパネルモニターでも詳細情報を紹介しているが、可能な範囲で検討する。（事務局）
- 風評払拭という観点では、過去の事象については、表現を是非過去形にしてほしい。現在も続く影響もあるので判断が難しい点はあるが、（小野委員）

<4-2 風評の払拭>

- 意見なし

<4-3 長期避難への対応>

- 意見なし

<4-4 健康に関する取り組み>

- 意見なし

<4-5 研修・ワークショップ>

- 意見なし

⑤ 復興への挑戦

<5-1 復興のあゆみ>

- タイムラプス映像は非常に良いかと思うが、いつ避難指示が解除されたかなどを示すとよい。(菊地委員)  
→テロップの入れ方については検討する。なお、タイムラプス映像は壁面上部に投影されるが、その下に復興年表タッチパネルが設置される。(事務局)

<5-2 廃炉の今>

- 廃炉の部分では、しっかりと廃炉が進んでいることを示したいが、なかなかアイデアが浮かばない。また、計画廃炉と事故廃炉の違いは説明したい。(中井委員)  
→廃炉資料館との住み分けもあり、あまり詳細な説明はない。(藤澤委員)  
→「廃炉の歩み」タッチパネルでこれまで実施されてきた内容を紹介している。計画廃炉と事故廃炉の違いについては紹介の仕方を検討したい。(事務局)

<5-3 福島イノベーション・コースト構想>

- 意見なし

<5-4 未来のまち>

- 意見なし

<5-5 県民によるチャレンジ>

- 意見なし

⑥ 全体共通・その他

- 外国語について、ネイティブチェックは行うか。(菊地委員)  
→ネイティブチェックを行っている。(事務局)
- 証言映像について、震災を経験していない方にも内容を分かりやすくするための工夫は何か考えているか。(小野委員)  
→解説がないと理解できないものは最小限のインサート映像などを入れている。また、テーマに沿った展示の中に証言映像があるため、ある程度は把握してもらえる想定である。(事務局)  
→見学や研修の時にさらに学びを深める工夫をしてほしい。(小野委員)
- 証言映像について、個人的にバランスが取れた人選だとは思いますが、異なる意見を持っている人もいるはずなので、その時の回答を用意しておいた方がよい。(小野委員)  
→実物資料の展示も入れ替えを想定している。証言映像についても同じよう

に、将来的に追加をしていくことも想定している。(事務局)

→来館者に対応するスタッフが人選の説明ができるように準備しておくとうい。(小野委員)

→来館者全員が納得する内容は困難。伝承館の基本理念にもあるとおり、開館後も収集を継続し、展示も更新していくという点を踏まえ、さまざまな意見をこれからも集めていく、というスタンスをしっかりと説明できることが重要。批判をしっかりと受け入れるスタンスが重要である。(藤澤委員)

- タッチパネルが多いため、新型コロナ対応をどう考えるか。(小野委員)

→他施設の事例も踏まえ、対応を検討する。(事務局)

- 実物資料は触れないようになっているか。(小野委員)

→基本的には全てケース内に展示されている。(事務局)

- 展示の最後に「また来たくなるような」工夫がほしい。(小野委員)

- 今後、展示の準備が整った段階で委員メンバーも現地を確認したい。また、展示を作ったら終わりではなく、完成してから育てていくことが重要である。(藤澤委員)

#### 4 その他

- 特になし